

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立福山葦陽高等学校	対象となる主な学年	全学年
取組事例名	令和7年度第1回 自転車3なしチャレンジ「事故なし・違反なし・盗難被害なし」		

◆ 生徒の実態及び取組を通して育てたい生徒像

生徒の実態	取組を通して育てたい生徒像
全体の生徒数が約1,000名と大規模校である。住宅街に校舎があることから、近隣住民の方から本校生徒の通学に関するご意見をいただく。そういった経緯もあり、数年前から本校周辺の住宅街での自転車乗車禁止というルール等も決めて、繰り返し指導を行ってきた。	1. 自転車事故の危険性を理解し、安全確認を徹底する態度を養う。 2. 交通法規を守ることの重要性を理解し、社会の一員として責任ある行動をとれるようにする。 3. 施錠の徹底など防犯意識を高め、盗難被害を防止する習慣を定着させる。



◆ 取組の具体的内容

取組を実施する意図及びねらい
本校生徒が日常的に利用する自転車について、交通ルールの遵守と安全意識の向上を図り、自他の命を守る行動力と社会的責任感を育成する。また、生徒会執行部が主となり活動することで、正しい交通マナーと防犯意識を「主体的」に身に付けさせることをねらいとする。
取組の流れ・創意工夫・生徒の変容等
「取り組みの流れ」 本取組は、福山東警察署からの依頼を受けて実施したものであり、福山地区の複数の高等学校が参加する取組として行われた。本校では、生徒会執行部が中心となり、年間を通して計画的に実施した。 5～6月に活動計画を立案し、7月からは登下校時に校門周辺で自転車マナーの確認を行うとともに、昼休憩時間に施錠状況の点検を行った。また、生徒会が交通安全ポスターを作成・掲示し、校内放送を通して交通マナーの啓発を行った。 夏休み明け以降も取り組みを継続し、9月には活動報告書を福山東警察署へ提出した。その後、福山東警察署内で審査が行われ、本校の取り組みは高く評価され、金賞を受賞した。 12月には、これまでの成果と課題を整理し、終業式において全校生徒に向けて振り返りを行った。 「創意工夫」 本取組では、自転車の安全利用に関する知識の理解にとどまらず、生徒が自ら課題を捉え、行動を振り返り、改善につなげる学びとなるよう、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて活動を構成した。具体的には「事故なし・違反なし・盗難被害なし」を「自転車3なし」として合言葉化し、生徒が日常生活の中で自ら意識し、主体的に行動できるよう工夫した。また、身近に起こり得る自転車事故や交通違反、盗難被害の事例を提示することで、自身の行動と結び付けて考える学習を行った。 これらの活動を通して、交通ルールやマナーを理解する力に加え、自ら判断し安全な行動を選択する力、他者の安全にも配慮し行動しようとする態度など、将来にわたって必要となる資質・能力の育成を図った。 「生徒の変容」 生徒は交通ルールやマナーへの理解を深め、自ら判断して安全な行動を取ろうとする意識が高まった。住宅街での降車や施錠に対する意識の向上がみられ、他者に配慮しようとする態度が育成された。生徒会執行部においては、自己有用感や責任感の高まりが見られた。【自己存在感の感受】

◆ 成果（○）と課題及び今後に向けて（●）

- 自転車に関するルールやマナーについて学び、日常生活で安全な行動を意識して実践することができた。
- 生徒が自ら判断し行動する力や、他者の安全にも配慮しようとする態度など、生活に生かされる資質・能力の育成を図ることができた。
- 生徒の自転車に関する安全意識には個人差があり、すべての生徒により一層の行動変容を促すためには、家庭や地域、関係機関との連携をさらに深める必要がある。
- 活動期間が終了してからも安全行動を継続していくための工夫が今後の課題である。